

# ③ 高等部の取組み

貢献力

高等部  
学校や地域の一員として、地域のニーズのために何ができるかを考え自ら実践する。

思考を深めながら取り組める活動はどんなことがあるか？  
どんな仕掛けが必要か？

学年	取組みの方向性	取組み	指導形態
1年生	○地域の人と協働して、自分たちだけではできない自然を守る取組に挑戦しよう	○環境・資源 ・地域の環境Ⅰ ・森林問題  ↓ 浜田市の自然環境の現状と課題について	総合的な探究の時間
2年生 ・ 3年生	○地域の困りやニーズを知り、解決するために自分たちができることを考え、実行しよう ○だれひとり取り残さない住みやすい町づくりに貢献しよう	○福祉 ・地域お助け隊Ⅰ ・地域の困りやニーズの調査 ・課題の整理  ↓ ①地域の方から話を聞き課題やニーズを把握する ②課題を解決するための活動	

## 【1年生】

私たちの住む地域の自然を守ろう



## 【2年生】 地域お助け隊I

地域おたすけ隊  
～得意なことをいかして恩返し～



## 【3年生】 地域お助け隊II

高齢化社会の中で、だれひとり  
取り残さないために  
自分たちにできることを考えよう



# ① 高等部1年 グループ



# (1) 児童生徒の実態

- ◆男子17名女子8名の計25名と生徒数が多いため、集団を苦手とする生徒は、学年単位の授業などに参加しにくいことがあるが、小集団にすることで、話し合いに参加することができる。
- ◆浜田市周辺の地域についてよく知らない生徒が多い。
- ◆与えられた課題に取り組もうとしたり、自分の考えを発言したりしようとする生徒もいる。
- ◆これまで思考する経験や習慣が少ないため、思考することや、自分なりに考えを深めることが難しい。
- ◆経験の積み上げが少ないため、不安感が強く、自己有用感がもちにくい。

## (2) つけたい力・ねらいについて

『育てたい資質・能力』『ESD構成概念 能力・態度』

○浜田の自然環境の現状と課題について知り、主体的に学ぶことができる。  
(知力・貢献力)

○グループ活動では、自分の役割を果たそうとしたり、友だちの気持ちを意識しながら協力して活動することができる。

(ふるまい)

○地域の人との関りからヒントをもらい、地域の一員として自分たちにできることを考えることができる。

(知力・ふるまい・ESD)

### (3) 指導計画

#### 実践Ⅰ

日時

1. 地域の自然環境について考えたり、意見を交わしたりする。

6/29

2. 海の現状と課題について、専門家から話を聞く。

7/3

3. 海と山の繋がりについて考える。

7/3

#### 実践Ⅱ

日時

4. 山の現状を知り、循環型サイクルについて専門家から学ぶ。

9/6

5. グループ活動

9・10月

6. 校外学習の見学を通して、林業の循環型サイクルについて学ぶ。

11/1

7. グループ活動で、循環型サイクルを更に探究する。

11月下旬

8. まとめ(発表準備)

1月中旬

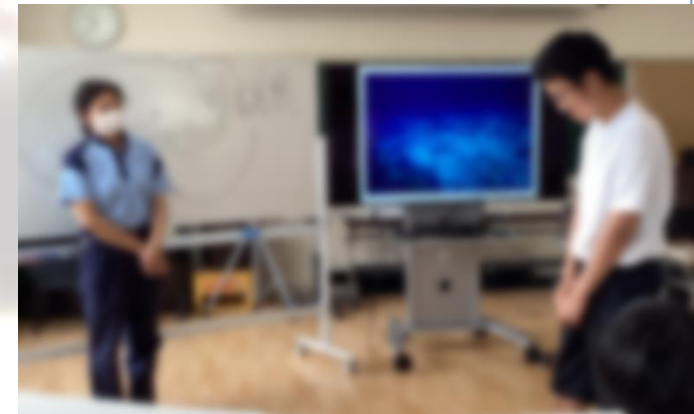


## (4) 実践Ⅰ 取り組みの概要 児童生徒の様子

**外部専門家の活用** 生徒たちに身近な環境問題として取り組みやすい「海の現状と海の役割」について外部専門家の方から学ぶ。

### 《生徒の様子》

- ◆身近な海についての話であったので、自分たちの知っていることを積極的に発言したり、質問をしながら話を聞く姿が見られたりした。
- ◆海中をきれいに維持する海藻や魚のエサは、山から流れる雨水や腐葉土の影響を受けていることを知った。
- ◆浜田市や江津市の海の現状や環境を知り、海の環境を守る前に森林を大事にしていかなければならないことを知ることができた。



## (5) 思考を深める手だて

## 成果 改善点

### 【成果】

◆ 私たちの身近な「海」の専門家であるアクアス職員に専門的な話をしてもらったり、映像を見せてもらったりすることで興味関心をもち、意欲的に今回の探究テーマを考えることができた。

◆ 一見すると「海と山との関係」という少し難しそうなテーマだが、私たちの生活と結びつけやすく、身近なテーマとして、これまでの海や山の知識も生かしながら整理していく方向性が見えやすかった。

### 【課題】

◆ 身近でよく知っているつもり「海」と「山」だが、いざ探究を始めるともっといろいろなことを自分たちで調べたり体験したりしたくなり、限られた時間の中で取り組むために、今回の探究の焦点を絞ることが難しい面があった。



# (6) 実践Ⅱ

# 取り組みの概要

## 循環型サイクル

かんばつ  
間伐グループ

植えるグループ

使ってグループ

使っぱなしはダメだね?

健康的な森ってどんな森?



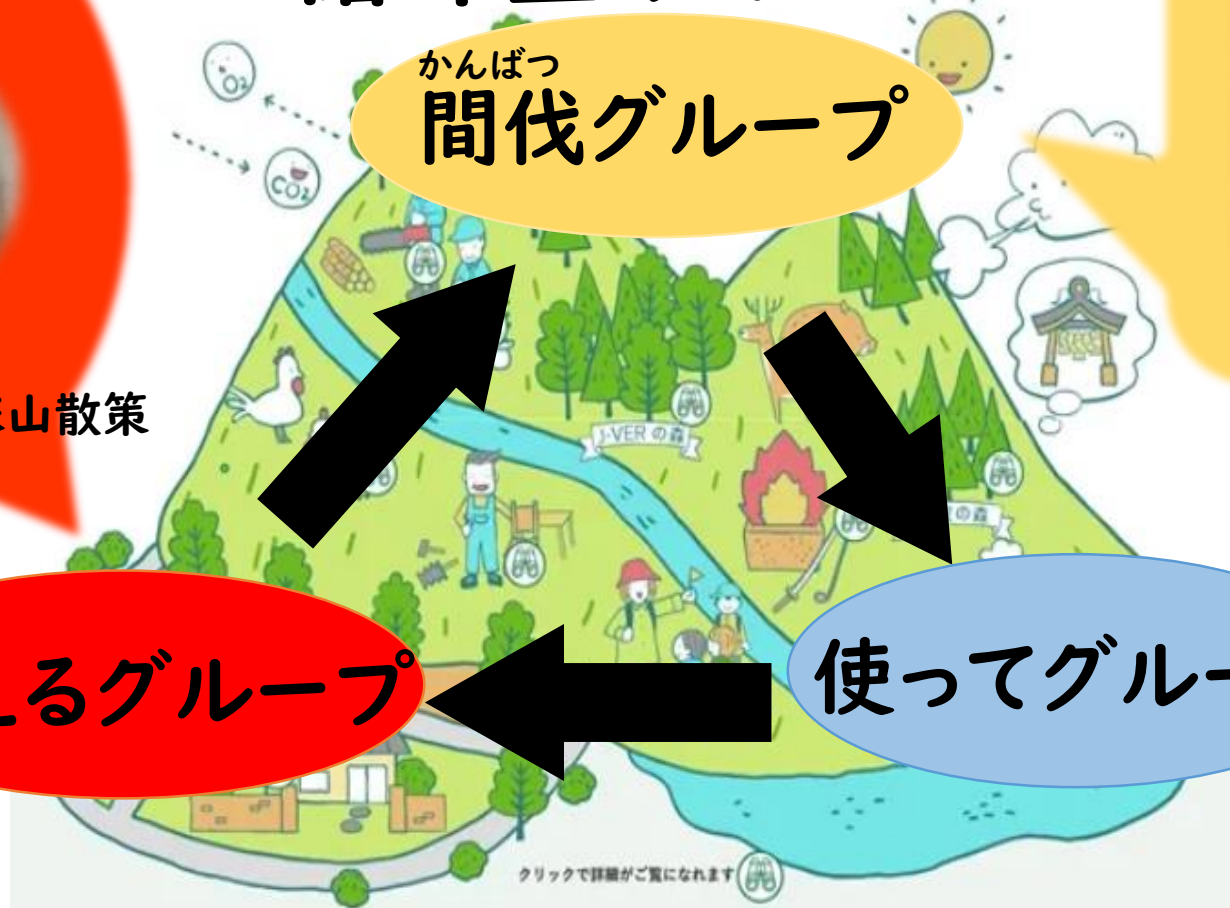
浦田木材見学、堂床山散策  
間伐体験・見学、

間伐された木材・端材  
はどうなるの?



浦田木材見学、  
日本製紙江津工場

浦田木材見学、堂床山散策  
間伐体験・見学、



# (6) 実践Ⅱ 取り組みの概要 児童生徒の様子

## 外部専門家の活用

山の自然を守るために林業で行っている「循環型サイクル」について学ぶ。

<生徒の様子>

- ・林業の視点での話を聞くことで林業について知ることができた。
- ・森林を守る取り組みの実際を知ることができ、どのように調べ学習を進めるとよいかのヒントになった。

見学・体験の実施 実際に体験したり見学したりして学ぶ。

<生徒の様子>

- ・現地へ赴き、自分たちで見たり聞いたり、触れたことは生徒たちの心を揺さぶり、更に調べたいという意欲につながった。

中間発表 外部専門家から自分たちが調べたことに対しての助言を得る。

<生徒の様子>

- ・自分たちがまとめたことを評価してもらったことで、自分たちが考えたことが間違いでないことが分かり今までの取り組みが自信になった。

## (7) 改善点をもとにした思考を深める手だて **成果 課題**

### 【**成果**】

- ◆ 中間発表で専門家に助言をもらい、生徒たちは、更に調べたり考えたりして深めることができ、最終的な発表に繋がった。
- ◆ 専門家より林業の取り組みについて学ぶことができた。

### 【**課題**】

- ◆ 知識を深めることはできたが、「自然を守るために」を自分事として考えるまでに至らなかった。もっと体験や見学、携わっている方々の話を聞くなど直接的な取り組みが必要だった。

## (8) まとめ

### 【成果】

- ◆山の自然環境に関心の薄い生徒だったが、海の専門家から海と山の深い繋がりを学ぶことで、海から山に広げて自然環境を捉えることができた。
- ◆専門家から話を聞くことで様々な自然現象を知ることができ、防災の観点でも興味をもつことができた。
- ◆中間発表を設けることで、林業の循環型サイクルについて掘り下げて調べることができた。

### 【課題】

- ◆今回、調べたことや分かったことを、地域のために貢献するところまで学習の中で取り組むことはできなかった。しかし、海と山の繋がりの職業を知ったことで、私たちが住む地域に興味をもったり、貢献活動に取り組むきっかけにしてほしい。
- ◆思考しようとしたり、思考を深めようとする機会を今後の学習で繰り返し設定する必要がある。



## ② 高等部 2年生

総合的な探究の時間

『地域おたすけ隊』

～ステージⅠ～



# (1) 児童生徒の実態

機動力

## 強み

- ・ 集団活動になると行動力を発揮し、様々なことに前向きに取り組める。
- ・ 体を動かしたり、運動をしたりすることが好きな生徒が多い。



## 弱み

- ・ 未経験のイメージに対して見通しを持つことが苦手。
- ・ 成功体験が少なく、失敗したくない気持ちも強く、新たなことに挑戦することに消極的であったり、前向きに取り組みにくかったりする。



## ○長所を生かす内容を設定

- ・ 「地域」のために自分たちのできることを探し、自分たちの良さを生かす活動を実行。
- ⇒ 「人の役に立った！」 「誰かに必要とされている」という 自己有用感を感じて 自信につなげてほしい。



## (2) つけたい力・ねらいについて

『育てたい資質・能力』『ESD構成概念 能力・態度』

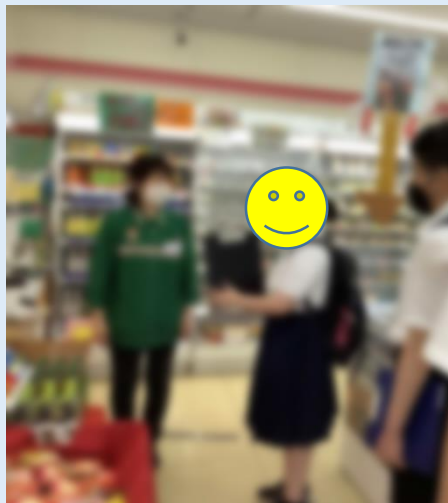
- ①地域のニーズを知り、自分たちの強みを生かしてニーズに応えるために具体的な計画を考える。(知力)
- ②依頼者の思いを想像したり、その思いを汲んだりしながら取り組む大切さに気付く。(ふるまい)
- ③地域のために計画したことを協力して実行しようとする。(貢献力)

ESD構成概念 多様性・連携性

ESD能力・態度 ②③④⑤⑦

# (3) 指導計画(4月~7月)

インタビューを通して  
地域の課題を知る



- 国府地域の課題
  - ・若者が少ない
  - ・イベントが少ない
  - ・買い物が不便
  - ・お客さんが少ない
  - ・お店のまわりにゴミがある
- など



課題を整理し、自分たちが  
できることを考え、発表する



看板や地図を  
作ってみよう!

買い物代行を  
してみたらどう  
かな?

課題を  
調べる



課題を  
整理する



自分たちの得意分野を  
活かし、地域のために  
できることを考える

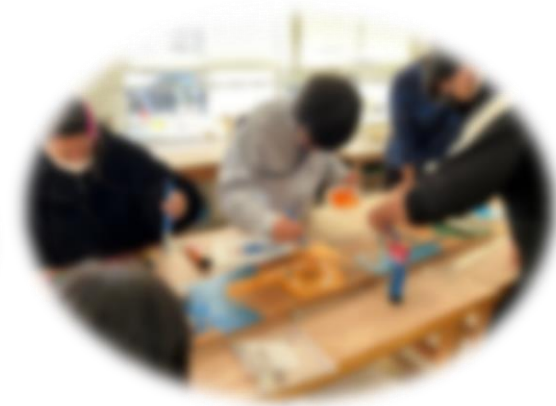
研究対象グループ

1G	2G	3G	4G	5G
生徒 4名	生徒 4名	生徒 4名	生徒 3名	生徒 5名
○国府小学校 ・神楽が好きな 児童が多い	○Hamairo ・看板をつくって ほしい	○佐々木商店 ・国府地域の地図 ・看板をつくって ほしい	○三島ファーム ・お店の宣伝をしてほしい ○国府地域の方 ・買い物が不便	
鬼棒など 神楽の道具づくり	看板づくり	地図 看板づくり	野菜販売のチラシ配り	

# (3) 指導計画(9月~12月)

活動①の計画

活動の様子



実践Ⅰ

実践Ⅱ

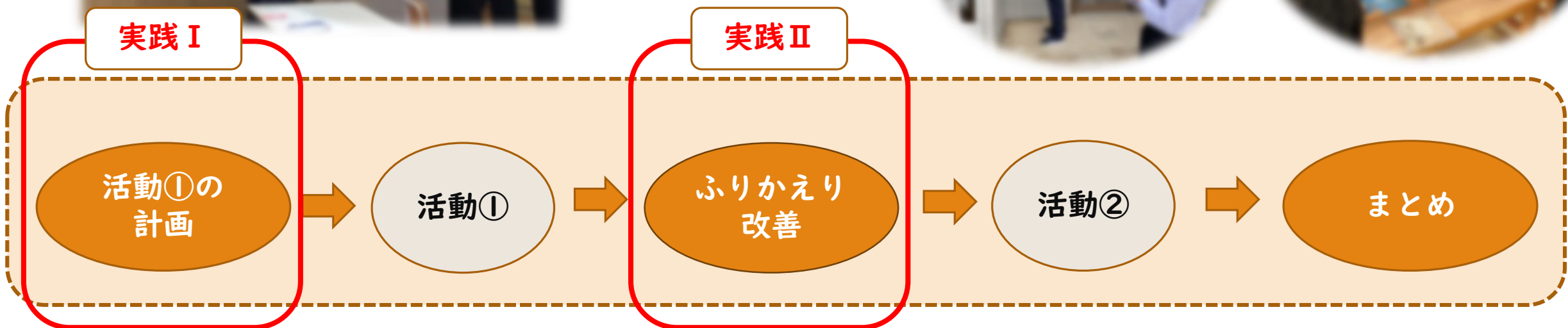
活動①の  
計画

活動①

ふりかえり  
改善

活動②

まとめ



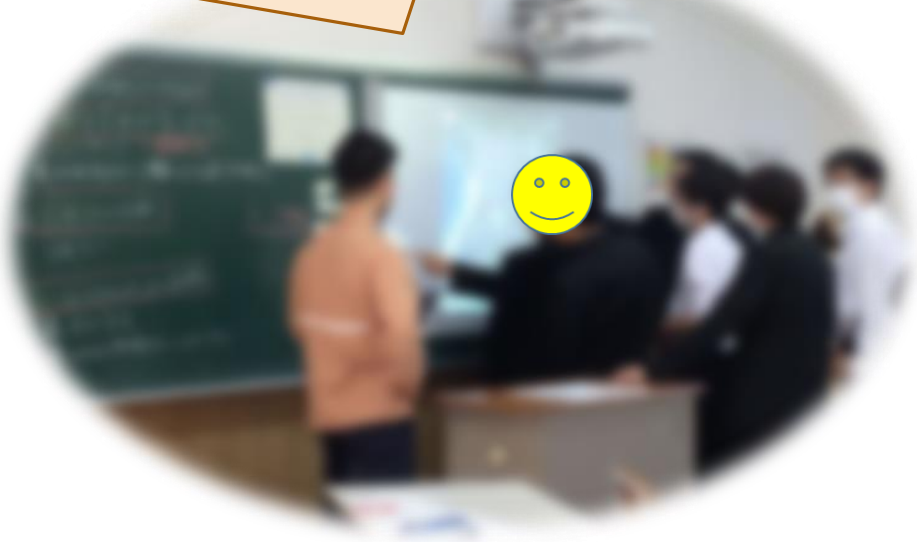
# (4) 実践Ⅰ 取組みの概要 児童生徒の様子

## 取組の概要

- ・ 1回目の活動（チラシ配り）を実施するための具体的な計画を立てる。

### 【生徒の様子】

- ・ 積極的に意見を出し、活発な話し合いができた。
- ・ 思考に時間がかかる生徒へのフォローが必要だった。



### 【思考を深める手立て】

#### ①話し合い活動について

- ・ **生徒が主体となって**進められるように、**役割分担**をする。
- ・ 発言しやすい雰囲気にするため**話し合いのルールを提示**する。

#### ②教員の役割分担

- ・ 話し合いがスムーズに進むように、**必要に応じて助言をしたり、発問をしたりする。**（CT・AT）
- ・ **ホワイトボードに生徒の意見を板書し、思考の流れが見えるようにする。**（AT）

#### ③視覚的支援・ICT活用

- ・ スクリーンで地図を映し出し、必要なことをタッチペンで描きこみながら、**全員で情報共有できるようにする。**

# (5) 思考を深める手だて 成果 改善点

## ○成果

- ・司会・記録を生徒がすることによって主体的に活動をすることができた。
- ・スクリーンに地図を映し出しながら話をすることでどの地区をだれが分担するかなど具体的にイメージがしやすくなり、自分の意見を伝えるきっかけになった。情報が共有しやすかった。

## ○課題

- ・発言力のある生徒の意見が強い。意見をいいにくい、思考をすることに時間がかかる生徒への対応。
- ・教員の役割を明確にする必要がある。



## ○改善点 (永見指導主事より指導助言を受けた内容)

- ①まずはペアごとに振り返りをする⇒振り返り内容を発表。全員で共有する。  
※アウトプット (発表) を前提をすることで、思考する場面を意図的に設ける。
- ②自分の思いが伝えにくい・思考を深めにくい生徒に意見がないかを聞き出す。(AT)



# (6) 実践Ⅱ

## 取組みの概要 児童生徒の様子

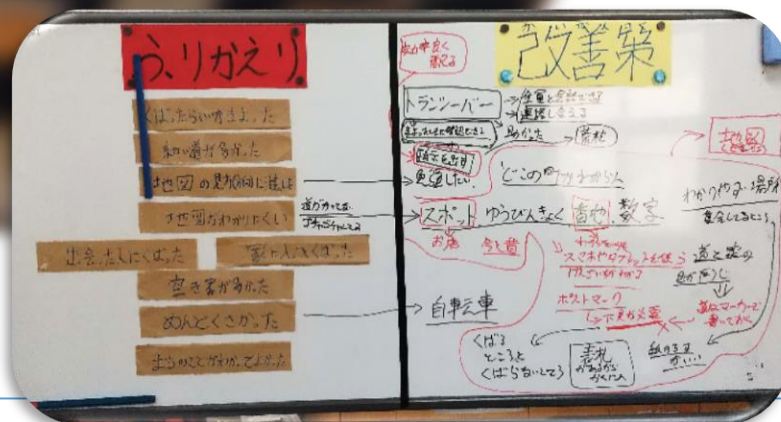
### 取組の概要

1回目の活動でチラシ配りをしたことについて振り返りを行い、2回目の活動に向けての改善案を考える。



### 【生徒の様子】

- ・ 実践Ⅰよりもスムーズに司会進行や記録ができ、生徒が主体となって話し合い活動ができた。
- ・ 改善案について生徒によって様々な意見が活発に出た。
- ・ ワークシートを活用することで、思考に時間がかかる生徒も考えをまとめることができた。



# (7) 改善点をもとにした思考を深める手だて 成果 課題

## ○成果

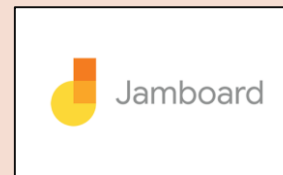
- ・司会の生徒を中心に話し合いがスムーズに進み、いろいろな意見が出た。
- ・実践Iよりも生徒全員意見を言えていた。
- ・ワークシートの活用は思考が遅い生徒に有効であった。

## ○課題

- ・思考の流れを生徒がわかりやすい形で提示する必要があった。
- ・生徒によって思考するスピードが違う。思考に時間がかかる生徒への対応。
- ・課題解決について意見を統一することが難しかった。

## ○改善点（永見指導主事より指導助言を受けた内容）

- ・Google JamboardやCanva等のアプリの活用。意見を出したり、集約しやすい。
- ・思考ツールを活用すると、より思考を深めることができる。  
(総合的な探究の時間ガイドブックP17)
- ・生徒から様々な意見が出ていた。「なぜそう思うのか」などと、教員との対話から、生徒自身がなぜそのような思考になったのか自覚できるように導くことが大切。
- ・色々なタイプの生徒がいる。課題解決については、それぞれに違いがあっても良い。

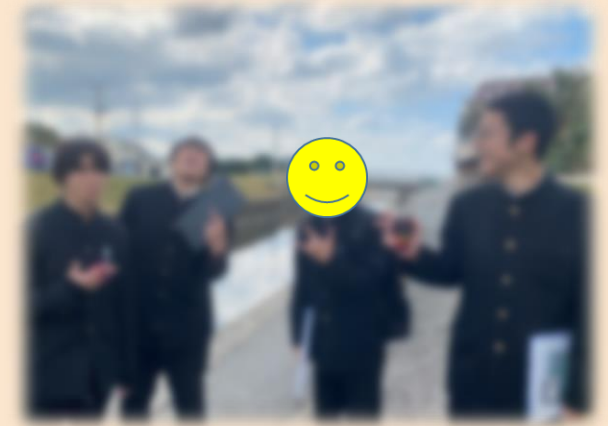


## (8) まとめ①

### ○得意なことを活かした活動の設定

自分たちの得意なことやできることを活かして地域貢献できることがわかる機会になった。

「もっとやってみたい!」「やってよかった!」など前向きな感想がほとんどであり、モチベーションを保ちながら取り組むことができ、自信をもつことができた。今回で終わりではなく、次年度にこの取り組みを繋げていけると良い。



### ○地域の方との関わり

直接会って感謝の声を伝えてもらうことで「やってよかった。」という達成感を得られ、次の意欲に繋がった。活動ごとに地域の方からフィードバックをいただく等、もっと関わる機会を設けられると良かった。

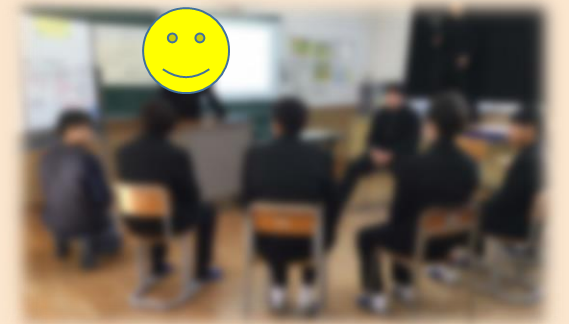


## (8) まとめ②

### ○話し合い活動について

自分なりの考えをもち、相手に伝える場面が多く見られた。人間関係に配慮したグルーピングにしたこともあり、安心して意見交換ができた。生徒によってさまざまな意見が出るため、意見を統一することが難しいこともあったが、**教師の助言やテーマをわかりやすく提示することで考えをまとめることができた。**

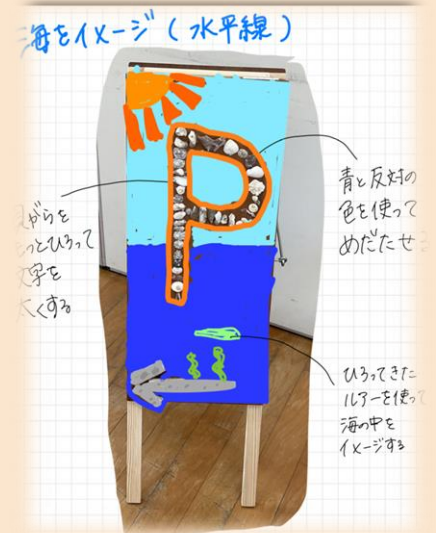
**課題設定が難しく、「看板をつくってほしい」等、具体的なニーズはイメージがしやすかった。**



### ○視覚的な支援・ICT活用

パワーポイントやKeynoteで活動の流れを提示することで**見通しをもって取り組む**ことができた。

スクリーンに地図を写して活動の計画を書き込んだり、看板のイメージ図をペイントソフトで描いたりすることで**具体的なイメージを膨らませる**ことができた。また**全体で情報を共有しやすく**、思考を深めるきっかけに繋がった。



### ③ 高等部3年グループ

## 地域おたすけ隊 ステージⅡ

#### ○主題

高齢化社会の中で、だれひとり取り残さないために、自分たちにできることを考えよう。



# (1) 児童生徒の実態

- 安定して学習に取り組める生徒と集団に適応することが苦手な生徒が2:1で在籍しているが、参加方法を相談し、調整することで参加できる。
- 初めての活動に不安や抵抗があり学習意欲が低かったり、興味関心の幅が狭かったりするため、見通しがもてると安心して力を発揮することができる。
- 初対面の人には関りをもちにくいですが、高齢者の方には比較的関わりやすい。
- 物事をつなげて考えることは苦手だが、体験しながら学ぶことや繰り返し取り組みでつなげて考えられることがある。



## (2) つけたい力・ねらいについて

『育てたい資質・能力』『ESD構成概念 能力・態度』



○浜養ESDのカテゴリー

みんなが住みやすい町にしよう

(人権・福祉・消費・防災・健康・平和・労働)

### 単元の目標

- 地域の困り事やニーズを知り、解決するために自分たちができることを考える。  
(知力)
- 自分たちで考えたことを実行することで、住みやすい町作りに貢献する。  
(貢献力)

### ESD 重視する資質・能力

- ① 批判的に考える力
- ② 未来像を予測して計画を立てる力
- ③ 多面的・総合的に考える力
- ④ コミュニケーションを行う力
- ⑤ 他者と協力する態度
- ⑥ つながりを尊重する態度
- ⑦ 進んで参加する態度

# (3-1) 指導計画

## 実践I

### 思考を深めるための準備

総探の流れ	実施時期	学習内容
課題の設定	6月下旬	<ul style="list-style-type: none"><li>○昨年度の取組みの復習</li><li>○高齢化社会への取組みであることを知る。</li></ul>
情報の収集	7月上旬	<ul style="list-style-type: none"><li>○市役所の方に昨年度の取組みをプレゼンする。</li><li>○市役所の方に話を聞く。</li><li>○高齢化社会を支える取組みをしている機関を知る。</li></ul>
	7月中旬	<ul style="list-style-type: none"><li>○「警察」「社協」「まちづくりセンター」にインタビューにでかける。</li></ul>
整理・分析	7月中旬	<ul style="list-style-type: none"><li>○1学期の活動についてまとめる。</li><li>○自分たちにできることを考える。</li></ul>

## (3-2) 指導計画

## 実践I

## 思考を深める場面 その1

総探の流れ	実施時期	学習内容
整理・分析 課題の設定	9月初旬 10月下旬	○1学期の振り返り ○イベントのテーマを考える。 ○イベントの内容を考える。
整理・分析	11月初旬 11月下旬	○グループで話し合い・準備 (活動の流れ・チラシ考案・道具制作等)
情報の収集	12月4日	○イベントI 企画の実施 アンケート 読書ボランティアさん 寄宿舍食堂
整理・分析	12月初旬	○イベントIの振り返り、改善策の話し合い <どうすればテーマにせまった活動になるか> ○改善策を受けてグループの話し合い・準備

# (4) 実践Ⅰ 取り組みの概要 思考を深める手だて

## 【取り組みの概要】

### 「地域お助け隊 ステージⅡ」

- ☆浜田市の高齢化社会への取り組みの調査
- ☆自分たちが高齢化社会へできることの検討
- ☆イベントⅠの実施と振り返り

## 思考を深めるための手立て

☆関係機関への取り組みを参考にできるようにする。

☆目指すイベントの姿を生徒間で共有できるようにキーワードを考える。

### ・キーワードの視点

イベントの内容と高齢者へのかかわり方

☆1回目を改善して2回目を実施する。



# (5) 生徒の様子 成果 改善点

## 【生徒の様子】

☆関係機関の話のあと、居場所づくりが必要と気づいた。

☆会や関わり方のキーワードを取り入れることで、具体的に内容を考えていた。

## 成果

☆調査は自分たちにできることを考えるきっかけになった。

☆計画し実行したことで参加者に喜んでもらったという実感をもち、2回目に向けて意欲をもつことができた。



## 改善点

☆関わり方のキーワードを加えるが、自分からかかわる姿が少なかったため、主体的に取り組めるように、参加者と関わりやすくする方法を考える場面の設定や生徒主体で取り組めるような時間配分を工夫した。

☆イベントの内容が時間の割りに多かったこともあり、運営に教員が入ることが多かった。教員の人数を調整した。

# (6) 指導計画 実践2

## 思考を深める場面 その2

総探の流れ	実施時期	学習内容
整理・分析	12月初旬 12月中旬	○イベントの振り返り、改善策の話し合い 〈どうすればテーマにせまった活動になる〉 ○改善策を受けてグループの話し合い・準備
情報の収集	12月18日	○イベント2 企画の実施 アンケート 殿町サロンの皆さん 浜田まちづくりセンター
整理・分析	12月中旬	○イベント2の振り返り 〈前回より改善されたこと〉〈テーマにせまれたか〉 ○絵手紙で礼状作成
まとめ 表現	1月中旬 1月26日	活動のまとめ・発表に向けて 地域との連携協働学習報告会



# (7) 実践Ⅱ

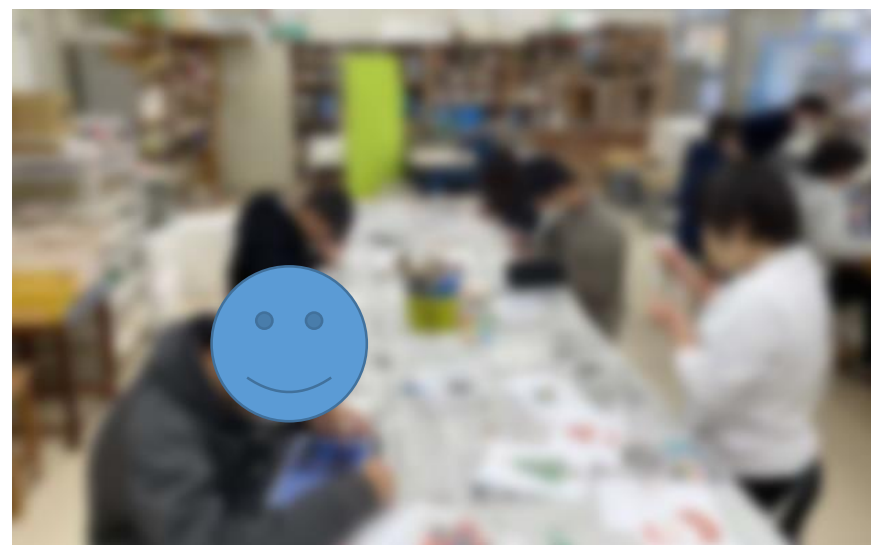
## 取組みの概要

### 【取組みの概要】

- ・実践Ⅰの振り返りから改善策を考える
- ・イベント2回目の実施
- ・お礼状（絵手紙）の作成
- ・振り返りと今後について



殿町サロンの皆様と



## (8) 生徒の様子



- ・イベントのキーワードや高齢者との関わるポイントを、毎時間確認したことで、意識しながら取り組む姿が見られた。
- ・椅子の準備などの関わりやすい方法を考えて、高齢者の方とのかかわり方について、「目線をあわせる」「相手のペースに合わせる」などを意識していた。
- ・イベントを2回行うことで、生徒自身が、高齢者の方に喜んでもらうことを意識しながら内容やかかわり方を考えることができた。会場のレイアウトや動きについても確認することで、生徒同士で協力する姿が見られた。
- ・生徒が「テーマやプログラムがあった方がいい」と、より楽しんでもらうことを意識しながら考えて取り組むことが増えた。(名札、時間の見通し、マイク、茶話会の座席(案内しやすいように))

# (9) 2回の実践を通して 思考を深める手だてについて 成果 課題 まとめ

## 【成果】

・目指すイベントの姿や高齢者との関わるポイントをキーワードで考えたことで生徒がイメージしやすく、また、キーワードを毎時間確認したことで、意識しながら取り組む姿が見られた。

・1回目実施して、2回目に向けて改善し取り組むというプロセスにしたことで、1回目の経験を踏まえてより具体的に思考をしていく姿がみられた。

## 【課題】

・実態差のある生徒それぞれの思考する姿が明確ではなかったため、思考する場面に向き合いにくい生徒の姿もあった。手立てが不足だったと考えられる。

・生徒が思考したことを、言葉で発表できる場面を設定したり、授業の中でのねらいを共通理解したりしておくことで、生徒の思考をより深めることができた。

# 高等部の取組み

## まとめと今後の課題

### 成果

#### 【地域の方との関わり】

- ・ 自分の興味関心が薄い事柄でも、専門の方から直接話を聞くことで興味をもつことができた。
- ・ 直接会って感謝の声を伝えてもらうことで「やってよかった。」という達成感を得られ、次の意欲に繋がった。

#### 【見通しについて】

- ・ 授業のテーマを視覚的にわかりやすく伝えたり、毎時間ごとにキーワードを提示したりすることで具体的なイメージを膨らませることができた。

#### 【PDCAサイクル】

- ・ 1回目実施して、2回目に改善し取り組むというプロセスにしたことで、1回目の経験や活動を振り返り、次回の実施に向けて、具体的に思考していく姿が見られた。

#### 【公開授業について】

- ・ 思考を深める手立てについて、公開授業を通して、教員間で共有し、考えることができた。

# 高等部の取組み

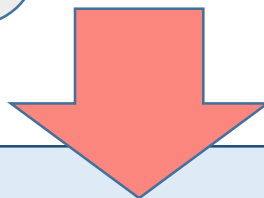
# まとめと今後の課題

## 【生徒の課題】

- ・話し合いの活動の経験が少ない
- ・思考することに消極的  
思考に時間がかかる

## 【教員の課題】

思考を深めるための手立てについて  
協議が不十分であった



## 【今後に向けて】

- ・テーマに沿った思考を深める手立てを中心に考え、教員間で共有する。
- ・生徒それぞれの思考する姿を明確にし、実態に合わせた手立てを考える。
- ・生徒同士の話し合い活動については、生活単元学習や国語などの時間を使い話し合いをする経験を積み上げていく。
- ・思考しようとしたり、思考を深めようとする機会を今後の学習で繰り返し設定する。